

總刊
牙氏

初學須知

田中耕造譯

五上

牙

第冊	第冊	第冊
一	一	四
五		
學校	縣中	滋賀

牙

雜
三

400

846

Vol. 6

明治八年十月

刻 翻

牙氏初學須知

文 部 省



牙氏初學須知卷之五上

動物學具錄

人體論

第一 骨及骨格 筋及腱

第二 神經

第三 五臟

第四 二氣候 應於人 緊要子 食湯

第五 飲食消化

第六 血液運行 吸收

第七 呼吸

牙氏初學須知卷之五上 動物學具錄 人體論

第八 蒸發 呼吸 分泌

第九 人種

主要ナル動物種類

第一 動物區分并ニ動物地理分布ニ關スル

第二 四手動物 猿

第三 食肉動物 熊

第四 犬 狼 山犬

第五 狢

第六 貓 獅

第七 虎 豹 野貓

第八 不エーノ 靈貓 臭貓 田鼠

「ヒユレ」ノ類ノ 貂鼠 「エリス」

黃鼬ノ類

第九 海豹及海馬 又海牛 犬牙 獸ノ名アリ

第十 鯨 ガシヤ 鯨脂

第十一 錯齒動物 鼠 野兔 家兔

第十二 海狸

目錄畢

第十一
 第十二
 第十三
 第十四
 第十五
 第十六
 第十七
 第十八
 第十九
 第二十
 第二十一
 第二十二
 第二十三
 第二十四
 第二十五
 第二十六
 第二十七
 第二十八
 第二十九
 第三十
 第三十一
 第三十二
 第三十三
 第三十四
 第三十五
 第三十六
 第三十七
 第三十八
 第三十九
 第四十
 第四十一
 第四十二
 第四十三
 第四十四
 第四十五
 第四十六
 第四十七
 第四十八
 第四十九
 第五十
 第五十一
 第五十二
 第五十三
 第五十四
 第五十五
 第五十六
 第五十七
 第五十八
 第五十九
 第六十
 第六十一
 第六十二
 第六十三
 第六十四
 第六十五
 第六十六
 第六十七
 第六十八
 第六十九
 第七十
 第七十一
 第七十二
 第七十三
 第七十四
 第七十五
 第七十六
 第七十七
 第七十八
 第七十九
 第八十
 第八十一
 第八十二
 第八十三
 第八十四
 第八十五
 第八十六
 第八十七
 第八十八
 第八十九
 第九十
 第九十一
 第九十二
 第九十三
 第九十四
 第九十五
 第九十六
 第九十七
 第九十八
 第九十九
 第一百

初學須知卷之五上

田中耕造 譯

佐澤太郎 訂

動物學

又曲り入體論

骨及帶格

骨ヲ連續ニシテ

一身體ヲ構造スル者

名ツケテ骨格ト云フ

以テ固著ルルガ如キニテラズ總テ皆關節ニ由

以テ相連續シ、部分ニ於キテハ、動カ者アリ、動カ
ズル者アリ、各其用ニ適セシメ、ニシテ爲ナリ、若
骨格一片ト爲リ、諸骨固着シテ動カザレバ、身體
少シキ運動スルコト能ハザルナリ、
骨ハ其主任ニ從ヒ、長キ者アリ、平扁ナル者アリ、
又曲リテ不直ナル者アリ、必シモ皆同形ナラズ、
臂骨、前臂骨、及、腿骨ハ杖形ニシテ其端圓シ、骨ハ
總テ中虛ナリ、是其堅牢ニシテ且輕カラシメ、
カ爲ナリ、而シテ其内部ニハ脂質ノ流體アリテ
充滿ス、之ヲ髓ト云フ、骨端ノ圓形ナル者ハ之ヲ

シテ強固ニシテ且、運轉ニ便ナラシムル所以ニ
シテ、其凸起スル者ハ、運轉ノ方向ヲ制限スル所
以ナリ、
關節ハ兩骨端相對合スル處ニハ、通常彈簧ノ紐
アリテ之ヲ結束シ、以テ其相乖離スルヲ防ギ、且、
運轉ニ由リテ生ズル所ノ衝突ヲ和シ、之ヲ軟骨
ト云フ、又別ニ骨液ト稱スル粘質ノ流體アリテ、
絶エバ骨節ヲ潤シ、運轉ヲシテ敏ナラシム、是、全
ク鐵鎖並ニ車輪ニ脂ヲ塗リテ其運轉ヲ利シ、
帶此意、
同ニナル理ナリ、

骨格ヲ構成スル所ノ諸骨ハ能ク自運轉スル者
ニアラズ必特別ノ機關アリテ、動骨ヲシテ不和
骨ニ接シテ運轉セシメ、又ハ微動骨ニ接シテ運
轉セシムルナリ、譬ヘバ臂骨ハ肩ニ固着スル所
ノ骨ニ接シテ動キ、前臂骨ハ微ク動ク所ノ臂骨
ニ接シテ大ニ動ク如シ、其之ヲシテ動カシム
ル機關ハ即筋ナリ、筋ハ纖維ノ相疊重シテ成レ
ル肉塊ニシテ、白色ノ紐アリテ筋ノ兩端ノ骨ニ
連結セシム、此紐ヲ名クテ腱ト云フ、筋ヲ腱ト
ハ其實全ク同物ト云フモ、筋ハ能ク縮伸シ、腱ハ

縮伸スルコト能ハサルヲ異ナリトス、此筋ハ
筋ハ隨意ニ縮短シ、又伸長シテ、其連結スル所ノ
骨ヲシテヨク運轉セシムル者ナリ、其組織ハ
筋葉四、神經、（*nerve*）、（*nerve*）、（*nerve*）、（*nerve*）
神經ニ神經體ト名クテ、軟質白色ノ薄線ナリ、
或ハ纖維質ノ内部に入り、或ハ其表面ヲ纏じ、全身
ノ諸機關中一トシテ神經ノ到ラザル處ナシ、而
シテ其源ハ皆腦髓（*brain*）ニ在リ、（*brain*）、（*brain*）、（*brain*）、（*brain*）
腦髓モ亦神經體ト同物ト成セシ者ニシテ、腦
蓋骨ノ内ニシテ、分レテ三部トナル、第一ヲ前腦

文部省
醫學部
解剖學

トレ第ニヲ後腦トス後腦ハ腦髓ノ後部ニ藏ル
等三延端ハ前後兩腦ト支柱トナリテ前ヨリ後
ニ延ス腦蓋骨ノ下部ニ開ケル孔フォラメンタヨリ外ニ
出テ脊骨スポンジボーンノ管ニ入ル之ヲ脊髓ト云フ
腦髓ト脊髓トヲ總稱シテ腦髓系ト云フ諸神經
ハ雙對ヲナレテ腦髓ヲ指令ヲ諸機關ニ傳達シ
諸機關ヨリ外感ヲ腦髓ニ報告スル者ハ延髓ト
脊髓トヨリ派出スルナリ然レドモ是造化ノ妙
巧ニシテ其如何ヲ方法ニ由リテ之ヲ傳達スル
ト報告スルト其吾又ヲ得テ測リ知ル所ニアラ

ズ神經ハ皆二條ノ絲線相合シテ成リ二條各根
據ヲ異ニシ故ニ其一根ハ切斷スルニテハ之ニ
根據無キ所ヲ支體ハ隨意運動ニ障碍ヲ生セザ
ル斷在、全ク其感覺ヲ失フ之具復生ヲ能ハ根ヲ
切斷スルニ其根據スル所ヲ支體ハ感覺故ニ
如馬場ニ馳スニ運動隨意ヲ失フ若シ又全ク兩根ヲ
切斷スルハ其時ハ感覺運動共ニ廢スルナリ其感
覺ヲ失フモツハ感覺神經既ニ切斷スルニテ運動亦隨
意ヲ失フナル者ニ運動神經既ニ切斷スルニテ其感
覺ヲ廢スル者ハ陰痿ト云フ其十三世ハ此處

腦脊髓系ニ神經四十三對アリ、其十三對ハ延髓
ヨリ出テ、餘ノ三十對ハ脊髓ヨリ來ル者ナリ、
茲ニ注目スベキ一事ハ、腦髓ハ神經ヲ媒均ク
得テレバ自能ク外感ヲ覺スルモノニアラズ、故
ニ鳥獸ヲ捕ヘテ其腦髓ヲ刺傷シ、又ハ之ヲ折裂
ストテ更ニ痛楚ヲ覺スルモノナラズ、然レドモ若
クシテ更ニ一部ヲ切斷スレバ其腦髓ト絶縁スル
所ノ諸部ハ皆死體ノ如クニシテ全ク感覺ナシ、
此ヲ以テ觀レバ、腦髓ハ全身感覺ノ首府スルコ
ト疑ナキナリ、

腦脊髓神經系ノ外、更ニ又特別ノ神經系アリ、其
作用隨意ナラズ、殊異ナルコトアル、
亦感覺ヲ傳達スルモノナシ、是脊骨ニ傍水
分派スル者ナリ、名ク交感神經ト云フ、此
胃腸、肺臟等ノ如キ、内臟ニ派出スル所ノ神經線
ヲ生ズル者ナリ、
交感神經ハ殊別ナルモノナレドモ、全ク腦脊髓
神經ト關係ナキ者ニアラズ、體中ニ於テは彼此
相結合連接スル所亦鮮ナク、
第三章 五感

人類と鳥獸とヲ論セズ、總テ動物ノイテ外物ノ
危害ヲ免ル、自己ノ食ヲ求ル、其子ニ食ヲ與ヘ、且
仇敵ヲ避ケレシメシガタメニ、造化主更ニ復、特別
ノ機關ヲ賦與シテ之ヲ保護セ、感覺機關ニ、
人ハ此靈妙ナル機關ノ存スルニ由リテ、能ク視、
能ク聽、能ク嗅、能ク味セ、亦能ク觸覺セ、
又動物中發聲ノ機關テ、其聲音ヲ發スル者
多シ、且聲音ヲ以テ同類ニ意ヲ通スル者亦コ
シクアリ、
感覺機能五ナリ之ヲ五感ト云フ、觸感、聽感、味感、

聽感及視感ナリ、
皮膚ハ全面ハ皆觸感ノ機關ナレドモ、其最モク
萬物ノ大小形狀、質ノ疎密、硬軟等ヲ認知、感覺ス
ルモノハ、特ニ手ナリ、全身ノ皮膚ハ惟、他物ノ觸
ルニコトナリ、感覺スルニ過ギザレドモ、手ハ能ク
自前後左右ヲ摸索シテ之ヲ詳認スルナリ、
觸感ハ鼻孔内ニ張布スル所ノ膜ニアル者ナリ、
發揮體ノ目視スルニカテザル小分子飛散シ來リ
此膜ニ觸ルレバ、能ク其香臭ヲ嗅ヤテ之ヲ辨
別ス、

味感ハ味ヲ知ルコトヲ掌ドル、其機關ハ舌及上
 齶ナリ、味感并ニ熱感モ亦一種特別ノ觸感ナリ、
 聽感ハ聲音ヲ聽キテ其清濁強弱ヲ詳カニシ、其
 河物ノ聲音タルコトヲ識別スル者ナリ、蓋聲音
 ハ原發音體ヨリ生ズル振動ニシテ、其振動周圍
 ノ空氣ニ次及シ、漸々傳ハリテ聽感主任ノ機關
 タレ耳ノ諸部ニ達スルナリ、

視感ノ機關ハ眼ナリ、其職ハ光體ヨリ放射スル
 所ノ光線、又ハ他體ノ反射スル光線ノ外感テ、覺
 コルコトヲ掌ドル者ニシテ、觸感ノ補助ヲ得テ

萬物ノ形狀辨別、距離ノ遠近、位置ノ知、諸物
 色刑ヲ食其糞、並ニ魚類ノ味ヲ食草、蠶桑ノ
 五感ノ機關各特別ニ神經叢、遂由シテ腦脊髓
 系ヲ通テ、其神經各其感觸所ノ者ヲ收受
 之、且腦脊髓系皆髓鞘ニ包ミ、至ニ其末梢
 及ニ其末梢ニ至テ、五感諸鏡、敏者ナルコトハ、大抵同一機
 能ヲ有ス、禽獸ニ至テ、其末梢ノ話トシ、其性質ハ食物ノ
 三從ニテ、五感中ニ鑑別者、其鏡ヲ皆以テ、此
 鏡ニ以テ、彼等鏡ヲ補又者、意ニシテ、故ニ食肉動物
 物ノ味、觸感ニシテ、其末梢ノ話トシ、其性質ハ食物ノ

味感ハ味ヲ知ルコトヲ掌ドル、其機關ハ舌及上
齒ナリ、味感并ニ熱感モ亦一種特別ノ觸感ナリ、
聽感ハ聲音ヲ聽キテ其清濁強弱ヲ詳カニシ、其
何物ノ聲音ナルコトヲ識別スル者ナリ、蓋聲音
ハ原發音體ヨリ生ズル振動ニシテ、其振動周圍
ノ空氣ニ波及シ、漸々傳ハリテ聽感主任ノ機關
ナル耳ノ諸部ニ達スルナリ、
視感ノ機關ハ眼ナリ、其職ハ光體ヨリ放射スル
所ノ光線、又ハ他體ノ反射スル光線ノ外感ヲ覺
ユルコトヲ掌ドル者ニシテ、觸感ノ補助ヲ得テ

萬物動形狀、辨別其距離、遠近、覺知、察、辨、
未用ヲ食其異、蓋感、魚、筋、骨、肉、草、木、礦、物、
五感ハ機關各特別、各神經叢、經由、行、腦、脊、髓、
系、通、大、其神經、各其感、觸、覺、其所、以、者、由、收受
其、元、之、且、腦、脊、髓、系、傳、導、機、構、ル、ナ、且、至、其、末、梢、
大、腦、皮、質、基、質、ニ、五、感、諸、機、構、亦、由、此、抵、同一、機
ト、並、主、禽、獸、之、區、區、更、多、活、ヲ、益、其、性質、以、食物、
ニ、從、以、成、五、感、性、ニ、辨、別、者、亦、以、鈍、性、者、且、此、以
鏡、以、以、其、敏、鈍、辨、又、者、亦、以、其、性、以、故、ニ、愈、肉、動、
物、之、敏、鈍、辨、其、以、其、性、以、故、ニ、愈、肉、動、物、之、敏、鈍、辨、特

式初學須知 卷五上

作糜以勞否時應心勞其食亦變也以其體二適
至之口小ヲ要ス物ヲ以、建、味、尚、
右ニ信、其、如、食物ハ各適ト不適トナルガ
故ニ赤道近傍回歸線間ニテリ、炎熱堪ヘ難ク
懶惰ナリ易キ民ハ、粉米、芋、
果實等ヲ如キ、淡味ナル植物ヲ以テ常食トス、
回歸線北方ヲ距リテ、寒暖適度ノ國ニ近ヅケバ、
次第ニ美味ナル物ヲ食ス、故ニ亞非利加ノ北方
ニ至ルハ、其民既ニ小麥及糖質ニシテ、大ニ滋養
力有リ、穀類ヲ食シ且、肉類ヲ食ス、身ヲ壯健

回歸線ノ距リ多ク愈速クシテ、歐羅巴ノ北方ニ
至ルハ、肉類食スルコト愈多シ、英吉利及、日耳曼
北部防始、肉ヲ費ス、其、
力ナリ、稱、
至ルニ至ル、
益進、水國地方ニ到レ、又體固有ノ温暖ヲ
保持、
得、人體ニ動作、由リ、消費、
漸々消費、
體ヲ消費、

牙、
九、
文、

養分は多ク肉類ヲ食ハズ之ヲ補フニハ
ハシクテ植物ヲ食フハ大ニ宜シク是ヲ以
テ卧兎狼徳ハカ如キハ海豹一名海熊ト云フ水
並ニ馴鹿ノ肉ヲ食ヒ麩包ハ乾魚ノ肉ヲ以テ之
ヲ製シ酒ハ割烈ナル者ヲ用ルナリ

第五 飲食消化

飲食消化ハ動物ノ嚥下シテ体内ニ收入スル
所ノ肉類植物ヲ化シテ自己ノ體ト同物トナラ
ズル機能ヲ謂フ

連續ニ成レリ先器械作用ヲ以テ食物ヲ碎キ
次消化學作用ヲ施シ胃腸ヲ化シテ其利便
入ル食腸ヲ採リテ之ヲ口ニ入ルニ利便ナ
クシテ他ノ動物ニ至リテハ其機關種々一様ナ
ク食物口ニ入レバ齒ヲ以テ之ヲ分子之ヲ裂キ之
ヲ碎ク齒ハ刃形ナリ者アリ尖銳ナル者アリ又
以テ平手ニ踏タリテ各離テ其用ニ適スルナリ
津唾調和ニ舌ノ耳邊ノ筋條ニ小腺あり
出ル津唾ヲ以テ分裂破碎セシ食物ヲ調和ス

食物固既在齒舌以之食之分裂破碎又津唾以平之調和之其糊狀之舌上之鼻舌之轉也其口後之送也胃管之入也遂之胃囊之達也胸曲之入也胃管之入也胃管之口後之始也胸部之貫キテ胃ニ達スル者中其外之諸機也其機關之動也食物之咀嚼之嚼下スルハ純器械作用也其隨意識之咀嚼也既ニ胃管ニ輸送シテ後ハ意ノ如シテ其外之諸機也其機關之動也

食物既在胃囊ニ入リ、其中ニ生スル胃液（消化液）名曰消化液、消化力ニ由リ其宛醸元、諸元素ヲ粉碎シテ吸收スル也、是ニ於キテ復、胃ニ連ル消化液長管即、小腸（消化管）ニ入り、此際、諸機關釋等ヨリ生スル諸液ノ作用ニ由リテ其質ヲ變化、渣滓ヲ滋養物ト分離シテ二ノナル、其滋養分ハ即、乳糜ト爲ル、乳糜ハ白色粘膠質ナル者ニシテ腸管ニ附着ス、腸管ノ裏面ニ滿布セル細小ノ吸尿管、之ヲ大血管ニ輸送シテ血中ニ混入セシム、其渣滓ハ即、渣滓ニシテ、肝臟ヨリ分

必ハル膽汁ト混合シ、小腸ニ連接セシ大腸ニ入
ル、是ニ於テ筋ノ縮張ニ由リテ、之ヲ飲食消化
管ノ末端ニ送リテ體外ニ排泄スルナリ、
第六 血液運行血液運行 吸收吸收
血ハ流動體ニシテ、滋養分ヲ全身ノ諸部諸組織
ニ輸送シテ之ヲ榮養シ、以テ其消費セシ所ヲ補
益シ、且機關ノ動作ニヨリテ、生スル所ノ害物ヲ
誘導シテ之ヲ體外ニ排泄スル者ナリ、
人體ノ血ハ赤色ニシテ二物ヨリ成レリ、血ヲ脈
管ヨリ出シテ之ヲ檢視スレバ、判然區別スベシ、

其一物ハ黃色トシテ流動體ニシテ名ツケテ血漿ト
曰ク、他ノ一物ハ赤色トシテ固形小粒ニシテ名ツケ
テ血球ト曰フ、
血ハ二系ノ脈管中ヲ流ル、脈管ハ心臟ヲ根據ト
シテ心臟ヨリ出ル、心臟ハ筋質ノ機關ニシテ四
腔ヨリ成ル、其二腔ハ心房トシテ上部ニアリ、
二腔ハ心室トシテ下部ニアリ、右耳ト右室ト
相通シ、左耳ト左室トモ亦相通スレドモ、右房ト
左房トハ相通スルトコロナシ、蓋血ハ動脈ト名
ケル大管ニ由リテ心臟ノ左室ヨリ發出ス、動

脈ハ枝管者生曰テ頭首四肢ニ分派シ其枝管ノ
端ハ皆靜脈管ト名ダクル他ノ脈管ニ連接シテ
其含メル血ヲ心臟ノ右室ニ輸送スルナリ初メ
血ハ左室ヨリ發出スルトキハ赤色ニシテ稀薄
ナリ其後運行中其他力ニ由リテ變性スルガ故
ニ靜脈管ヨリ心臟ニ還入スル者ハ黑色ニシテ
濃厚ナリ若クモ依然トシテ久シク體內ニ溜滯スル
時ハ大害ナルガ故ニ黑血心臟ニ還レバ第一ノ
動脈肺動之ヲ心臟ノ右室ヨリ肺臟ニ送り第二
度靜脈肺靜再之ヲ肺臟ヨリ心臟ノ左室ニ送還

凡如此スル其色ハ黑血肺臟ニ入り空氣ヲ獨リ
テ全ク變質シ赤色ニ鮮血トナリテ心臟ニ還リ
更ニ動脈管ヨリ全身ニ注射スルナリ其色ハ赤
右ニ記スル所ニ由リテ考フニ此血循環ニ回リ
運行ヲナス者ナリ其一ハ大運行ニシテ心臟ヨ
リ注射シ全身ノ諸機關ヲ運行シテ復テ心臟ニ還
ルニシテ著トス一十六百二十年ニ當リ英吉利ノ
醫師ハハハハ氏之ヲ發明セリ一婦小運行ニシ
テ心臟ヨリ出テ肺臟ニ入り再ニ心臟ニ還ル者ヲ
謂フ是佛朗高ニ醫師セリハハハ氏ノ發明ニ係レ

脈ハ枝管ヲ生シテ頭首四肢ニ分派シ其枝管ノ
 端ハ皆靜脈管ト名ツクル他ノ脈管ニ連接シテ
 其含メタル血ヲ心臟ノ右室ニ輸送スルヲ初メ
 血ヲ左室ヨリ發出スル下キハ赤色ニシテ稀薄
 ナレドモ運行中其化カニ由リテ變性スルガ故
 ニ靜脈管ヨリ心臟ニ還入スル者ハ黑色ニシテ
 濃厚ナリ若クモ依然トシテ久シク體內ニ溜滯スル
 時ハ大害ナルガ故ニ黒血心臟ニ還レバ第二ノ
 動脈 肺動 之ヲ心臟ノ右室ヨリ肺臟ニ送り、第二
 靜脈 肺靜 再之ヲ肺臟ヨリ心臟ノ左室ニ送還

凡如此スルニ其キハ黒血肺臟ニ入り、空氣ヲ觸ル
 テ全體變質シ、赤色ニ鮮血トナリテ心臟ニ還リ、
 更ニ動脈管ヨリ全身ニ注射スルヲ其ノ上ニ
 右ニ記スル所ニ由リテ考フ、此以血液ニ一回ノ
 運行ヲナス者ナリ、其一ハ大運行ニシテ心臟ヨリ
 注射シ、全身ノ諸機關ヲ運行シテ復、心臟ニ還
 ルニ至ル者トス、一千六百二十年ニ當リ、英吉利ノ
 醫師ハ、ハ、氏之ヲ發明セリ、一始小運行ニシ
 テ心臟ヨリ出テ肺臟ニ入り、再、心臟ニ還ル者ヲ
 謂フ、是佛朗高之醫師也、ル、ハ、氏之發明ニ係レ

其發期由太運新發明以前百年二分、
血脈管ハ動脈ハ靜脈ナラ論其外圍皆欲ニ
吸收カヤル故其流動體若外圍ノ膜ニ觸ルルハ
忽之ヲ吸收スル血中ニ混入セムルナリ表皮
ヲ剝離若ハ支體ハ傷傷々々血脈管ヲ露出シテ
野蠻ノ民用非テ毒ハ大害ヲ生ズル
液ナリ大テロトハガムニシテ酸蝕蛇毒若ハ響尾
毒等ヲシテ之ニ觸レレムレバ大害ヲ生ズル
外圍ノ膜ノ之ヲ吸收スルニ由ルナリ
別々體內ニ於キテ吸收體ヲ介テ以テ主任

タル者ナリ名ヲテ乳糜管ト云フ是乳糜ヲ腸
ヨリ心臟近傍血脈管ニ輸送スル者ナリ肺動脈
ハ第七ハ呼吸ニ由リ血脈管ニ由リ肺動脈
乳糜ハ靜脈血ニ相合ヒテ心臟ニ右室ニ流入シ
心臟之ヲ肺臟ニ輸送スルハ空氣ニ觸レテ復動
脈血即赤色トナル肺臟ハ血管ヲ變ジテ故ノ如
ク赤色ナラズルコトヲ司ヒ其狀ハ鬆疎軟柔
ナル大塊ニ居テ内ニ膠多ク小囊ナリ茲ニ分派
スル所ノ諸管ハ其源三種アリ其一ハ肺動脈ニ
シテ心臟ノ右室ヨリ出テ肺臟ニ來ル其二ハ肺

靜脈二部テ肺臟内ニ放キテ肺動脈ノ末端ト連
接シ其血ヲ心臟ニ左耳ニ送還ス其三ハ單管ニ
テテ口ニ後部ニ起ル其土端ノ舌本ニテル所ヲ
喉頭ト名ツク其下リテ胸腔ニ入ル所ヲ氣管ト
名ツク
氣管ハ分レテ三大枝ト爲ル名ヅクテ氣管枝ト
云フ氣管枝ハ無數ノ小枝ニ分生シ一ハ右肺ニ
入り一ハ左肺ニ入ル肋骨ノ運動ニ由リ胸腔縮
張シテ空氣ヲ迎入リ且之ヲ送出スルハ此氣管
枝ヲ通過スルナリ

氣管枝ヨリ入り來レル空氣ト脈管中ニアル血
液トハ相隔離スレトモ空氣ハ能ク管ノ外圍ヲ
通過シテ血液ニ透入ス故ニ黑色濃厚ト血ヲ變
レテ赤色ノ液體トナリテ心臟ニ還リ更ニ又動
脈管ヨリ全身ノ諸部ニ運行ス此ノ如ク循環變
更スルニヨリテ血ノ煖ムルナリ動物體ノ溫煖
ハ之ヲ爲シ得ル者ニテテ人體并ニ其他動物ノ
體多クハ常ニ同熱度ヲ有スルモ亦之ニ由ルナ
リ人體ノ溫度空氣候ノ寒暖ニ關スルコトナク
兩極ニ如ク極寒ノ地ニ於テ此モ赤道地方ノ如

其體熱之國... 於此也、皆大約三十八度百度寒
 算... 以テ一定トス、
 血之脈管中ニテ、リ子運行スルハ、心臟ノ鼓動縮
 張ニ原シ、リ脈管ノ鼓動モ亦之ニ由リテ生ズル
 者ナリ、脈管ノ動ハ手指ヲ以テ動脈ヲ按ズレバ
 認知シ易シ、手若ハ脈頭等ノ動脈ヲ按ズレバ殊
 ニ明カナリ、健全體ニテリテハ心臟并ニ脈管ノ
 動、大約一秒時ニ一鼓ナレドモ、熱病患者ニ於テ
 テハ、二分時間ニ百二十度若ハ百三十度ニ至ル
手... アリ、

胸膈ノ縮張ハ、心臟ノ縮張ニ比スルハ大ニ緩徐
ナリ、
 又第八層蒸發トシテ呼吸トシテ分泌トシテ
 身體ハ榮養ト吸收トニ由リテ、漸ク増殖スルド
 モ、亦隨テ減損スルカ故ニ、常に相平ト爲ルナ
 リ、皮膚及肺臟ヨリ絶エテ瓦斯中水蒸氣ト失
 テ、是吸收ト機能ト全ク相反スル者ニルテ、名
 其ニ呼吸ト云ヒ又蒸發ト云フ、蒸發ト汗ト同根
 長テ同物ト云ルニ由リナカレ、汗ハ分泌ニ屬スル
 者ナリ、汗ハ

牙... 文部省

皮膚ハ體ノ外面ヲ被覆スル者ニレテ、數層相重
疊ニ成ル、其最外面ニアル層ヲ表皮ト名シ、
其最外面ヲ失テ他物ヲ侵入ヲ防グニ付、猶漆
塗具如ルガ如ク、但空氣ハ皮膚ニ附着スル者ハ、
皮膚ノ纖維ヲ運行スル脈管ニ血ヲ捺クニ吸収
スルニ付、肺臟内ニアル空氣ハ作用ト同様ナリ
空氣ハ皮膚ニ附着スルニ付、浴湯中ニ於キラ
皮膚ニ氣泡ヲ生ズルヲ見レバ明カナリ
皮膚ヲ貫クニキテ蒸散スル消失ハ甚、測リ易シ、其
消失ハ全消失ノ半ニ過ラズ、其中水氣ハ蒸發殊ニ

多シキニ付、又體ノ温熱ハ強烈ナル者ナレバモ、能
ク其熱ヲ堪ヘ、且平常寒暖ノ度ヲ同レシメスル者
ハ、全ク水氣蒸發ヲ爲シ、温暖ヲ消費スルニ由ル
ナリ、故ニ其蒸發ノ多ク少クハ、人ノ體ノ各處ニ於テ
人身内特ニ血中ヨリ他物ヲ除去スルコトヲ司
スル機關ナリ、其法ハ一種ノ濾過力ヲ有シ、其巧妙
秘精ニ至リ、未、測リ知ルコト能ハザルナリ、
此機關ヲ分泌機ト名シ、其血中ヨリ取ル所ノ
者ハ、或ハ直ニ之ヲ體外ニ排泄シ、或ハ體外ニ相
通スル所ヲ腔竅ニ注入ス、故ニ腎臟ハ血中ヨリ

牙
四
學
頁
知
卷
五
上

七

此物ヲ分取シテ尿トナシ又肝臟ニ綠色濃厚ニ
注シ苦味トシ膽汁ヲ作り之ヲ腸ニ送りテ體外
ニ擲去ル。合氣病ト云フ其血中ニコレト云フ
第九主人種
地球上一散布スル人類ハ四肢百體皆同一ナリ
ト云フ皮膚ノ色并ニ腦蓋ノ形ハ大ニ異ナレ所
トスルコト左ノ如シ第一白人種ハ歐羅巴全洲
亞非利加州ノ北部亞細亞洲ノ西方及西南ニ棲
住ス第二黃人種ハ亞細亞洲ノ中央東方東南部

及大洋洲ニ一部ニ蔓布ス第三赤人種ハ亞墨利
加洲ノ土人ニ云テ第四黑人種ハ奴隷亞非利
加全洲及大洋洲ノ大東ニ及バシ
黑人種ハ熱酷烈ノ地方ニ住シ日光其皮膚ニ
照シテ濃褐色ヲ生ズルハ故ニ佛朗西有石
有博物家ニホシ氏並ニ其他ノ著述家多クハ謂
莫奈人種ノ差別ヲ云ハ專其住居スル所ノ氣候
ニ關シテ然ル事ヲ云人種ハ異ナレハ獨其皮膚ノ
色ト云フ由ルニ云テ他ニ又明磯テリ即煩骨
ノ隆起願ハ突起并闊顔面ノ橢圓等ナリ是皆決

此物ヲ分取シテ尿トナシ、又肝臟ニ綠色濃厚ニ
シテ苦味アル膽汁ヲ作り、之ヲ腸ニ送りテ體外
ニ擲去ス、
第九土人種
地球上ニ散布スル人類ハ、四肢百體皆同一ナル
下ニ、皮膚ノ色并ニ腦蓋ノ形ハ大ニ異ナル所
ルガ故ニ博物家之ニ原ヅテ人類ヲ分ケテ數種
トスルコト左ノ如シ、第一白人種ハ歐羅巴全洲
亞非利加州ノ北部亞細亞洲ノ西方及西南ニ棲
住ス、第二黃人種ハ亞細亞洲ノ中央東方東南部

及夫洋洲ニ一部ニ蔓布ス、第三赤人種ハ亞墨利
加州土人及ニ赤、第四黑人種ハ奴、亞非利
加全洲及夫洋洲ノ大東ニ及、
黑人種ハ是熱酷烈ノ地方ニ居住シ、日光其皮膚
照シテ濃褐色ヲ生ジ、
有博物家ヒホン氏並ニ其他ノ著述家多クハ謂
其多人種ノ差別ヲ專、其住居スル所ノ氣候
ニ關シテ然ル者、
色ハ其由、
ノ隆起、
ノ突出并、
ノ橢圓等ナリ、是皆決

其種人氏之相婚娶モヤル者ハ今日ニ至ルニ至
 皆本種ノ目慢ヲ失ハセテ亦以テ氣候
 異關セテ其種ヲトテ證明スルニ足レリ夫日光ノ
 皮膚ヲ染ムルハ黑人種亞來由人種印度多島海
 多シ臣墨利加土人ノ皮色ト異ナル所アリ故
 日光ニ感ニテ染ムル色ハ惟皮膚ノ表面ノ
 皮ニ付テ數週間日光ニ觸ルニ止ルベシ皆能ク消滅

又佛朗西ノ如キ中帶ノ地ニ於キテハ春
 夏秋冬共ニ皮膚同色ナリ、白ニシテモ赤ニシテモ
 同シ人種ニシテ體ニ大小ノ差アリ筋力ニ強弱
 ノ異アリ其原由一チテハ氣候ノ寒暖ニ由リ、
 食物ノ良否ニ由リ、作業ノ勞佚ニ由リ、空氣ノ潔
 不潔ニ關シ、亦土地ノ性質ニ關スルナリ、
 土地ニ由リテ人ノ體ノ差異アルハ其由リテ來ル
 所得ヲ知リ難シト雖モ、瓦萊斯及吐里牛
斯山國界ノ山人クセタレ氏種ノ名、如
 キハ是土地ニ由リテ變質セラルト明カナリ、

七、開闢地ノ作用ニ關シテ、非洲北ナリ、而シテ
華十五紀、一千四百零一年ヨリ一千五百零一年ニ至
二千零六年ヨリ、開闢ノ期ヲ謂フ、即チ我ニ千零六十年ヨリ
十年ノ間、以來各方ノ移民地ニ住スル白人種ハ
異種ノ民ト相婚娶セザル者ハ、今日ニ至ルニ至リ
皆本種ノ目淺ク矣、北ナリ見テ、亦以テ氣候
別關セ、東亞トシテ證明スルニ足レ、則チ日光ハ
皮膚ヲ染ムルハ、黑人種並來由人種印度多島海
多シ、亞墨利加土人ノ皮色ト自異ナル所アリ、故
ニ日光ニ感シテ染モク、惟皮膚ノ表面ノ
日光ニ感シテ、數週間日光ニ觸ルニシテ、皆能ク消滅

夏秋冬共ニ皮膚同色ナリ、白クシテ、
同シ人種ニシテ體ニ大小ノ差アリ、筋力ニ強弱
ノ異、乃チ其原由一ナラズ、氣候ノ寒暖ニ由リ、
食物ノ良否ニ由リ、作業ノ勞佚ニ由リ、空氣ノ潔
不潔ニ關シ、亦土地ノ性質ニ關スルカリ、即チ
土地ニ由ルテ人體ノ差異アルハ、其由リテ來ル
所得ヲ知り難シト雖モ、瓦來斯、及吐里牛
斯山、明西、西班牙、人ノクレタレ、氏種ノ名、貌小
キハ、是土地ニ由リテ變質セラルコト明カナリ、

アルトシ、別ニ一添ス入種ニアラサル所以ハ
 四人種 白黃赤思 皆各アルモノノ質アレバナリ、アル
 ビノハ皮膚ニ色澤ナク、頭髮眉毛等盡、純白ニシ
 テ、眼ニハ赤色ノ虹彩アリテ、内部ニ黒色ノ瞳子
 ナク、光線ニ堪ヘ難クシテ、白晝ハ半明半暗ノ處
 ナリ、好シ、身體脆弱ニシテ筋力ナク、才智モ亦甚少
 ナリ、其内或ハ鋭敏ニシテ他ノ人種ニ譲ラサル
 者アリ、蓋全ク白人種ニ屬スル者ナリ、
 獸類ニモ亦アルモノアリ、白毛ニシテ赤眼ナル
 家屯及、ハツルノ 總鼠ノ如キ即、是ナリ、

動物種類

第一 動物區分并ニ動物地理分布

動物トハ耳、目、鼻、口等諸機關ヲ具有スル生活體
 ニシテ、感覺アリテ亦能ク自在ニ運動スル者ノ
 總稱ナリ、而シテ之ヲ論ズル學ヲ稱シテ動物學
 ト謂フ、腦髓ヲ包藏スル所ノ腦蓋ト、脊髓ヲ含有
 スル所ノ脊骨ヲ脊骨トテ、以テ神經系ヲ保護スル
 ト否トニ從ヒ、動物ヲ大別シテ二トシ、脊骨動物
 ト謂フ、無脊骨動物ト謂フ、更ニ又無脊骨動物ヲ
 區分シテ三トシ、軟體動物 牡蠣、蛸、牛等、關節動物 蟹、魚、血

及、耀々、動物一名植、海綿是ナリ、
 右無脊骨動物中下文ニ掲載スル者ハ、無血蟲ノ
 網中最緊要ナル類、蠶、蜜蜂、蟻等、其他僅ニ數類ニ
 過ギザレドモ脊骨動物ニ至リテハスノ類ヲク
 識ルベキ要用ナル種類ヲ列記スルコト甚多シ、
 脊骨動物ハ其數甚多シ、其大ニ異ナル者ヲ大別
 シテ四綱トス、哺乳獸、鳥、爬行動物及魚是ナリ、其
 各綱ヲ區分シテ目トシ、目ヲ細別シテ族トスル
 コト、猶植物ニ於キテ、目ヲ分テ科トスルガ如シ、
 哺乳獸ノ綱ハ、卵生セシテ胎生シ、之ヲ乳養ス

此諸動物ヲ包有ス、或ハ之ヲ四足獸ト名ヅク、然
 レドモ此綱中ニスル者、或ハ四肢ノ構成殆魚ニ
 類スル者アリ、鯨、海豚、魚人如ク、或ハ鳥ニ似テ空
 間ヲ飛翔スル者アリ、蝙蝠ノ如シ、且、爬行動物中
 ニ至ル亦四足ニ有シテ進行スル者アリ、トカヘ、コウモリ
 如ク、哺乳獸ト稱スルモ四足獸ノ名稱ハ、適當ナラ
 ズ、トカヘ、コウモリハ、トカヘ、コウモリ
 鳥ハ卵生シテ増殖スルガ如ク、爬行動物並ニ魚ノ
 如ク、其遺血ニ於テ、トカヘ、コウモリ哺乳獸ノ如ク、羽毛アリテ
 全身異被熱、前肢翼ニハ張固ナル長羽アリテ飛

鷹ノ用ニ供ス、
爬行動物并ニ魚ハ冷血動物ナリ、魚ハ水中ニ生
活シ、鰓ニヨリテ呼吸ス、水中ニ溶解セル空氣ヲ
吸フ、其四肢ノ構成泳游ニ便ナリ名ヅケテ鰭ト
云、其骨ハ人類ノ骨ニ比スレバ柔軟ナリ、魚骨
ト名テ列ス之不分テ、鳥鱗ノ如キハ其骨殊ニ軟
弱ナリ、
爬行動物ハ四肢大キ者多シ、其四肢ニキ者ハ脊
骨ノ作用ニ由リテ行動スルナリ、通常肺臟ヲ以
テ呼吸スレドモ、時ニハ生後又長クテ歴テ腮ヲ

生スル者アリ、或ハ始ヨリ肺臟ト腮トヲ兼有ス
ル者アリ、又終始腮ノミヲ具スル者アレドモ、其
稀ナリ、
動物モ亦植物ノ如ク氣候ニ由リテ生存スルコ
ト能ハズ、故ニ「カンダール」オホメシ、一名「サ
ハ」ニテ、
ハ亞非利加ノ外之ヲ産スル處ナシ、亞墨利加ニ
ハ象ヲ産セズ、獅虎ハ惟熱帯ノ沙漠ニ住シ、其他
麗鳥奇蟲ハ多ク熱地ニ産シ、毛皮ヲ具スル獸類
ハ極地ノ近傍至寒ノ處ニ棲居ス、是ヲ以テ「

西伯利ノ北部ノ外ニ於キテハ生存スルコトハ
、

第一 四手動物 狒々

哺乳獸中其身體内外ノ構成最ヨク人ニ類似ス
殊ニ其手ハ人ノ如ク、拇指ヨク他ク四指ニ對向
、把握自由ナル者ヲ一羣トシ、其目ヲ稱シテ四
手動物ト云フ、前肢後肢共ニ其端皆手トナルヲ
以テ四手動物トハ名ヅクルナリ、四手動物中或
ハ前肢ハ手トナラザル者アリトモ、後肢ハ必、手

形ヲ成ス者ナリ、猿ノ諸類即、出醜猿、サシバシセ

大猿及、猩々、以此同中ニアリ、始ニ新舊ノ對射

猩々學六十ハ猿ノ一類ニシテ、特ニ舊大陸歐羅

細亞及亞亞ニ産シ、新大陸亞墨ニ於キテハ之ヲ見

ルコトナシ、原、波羅洲島大洋洲、支那及亞非利加

又産シ、其程及モ亦尾ナキコト猶、舊大陸ノ諸猿

人如シ、其幼少ナル時ハ、大ニ人ニ類スレドモ、成

長スルニ從ヒ、漸クニ變ジテ其鼻扁平トナリ、口

ハ異常ニ大ニ、額ハ陷凹シテ兩眼相接近シト唇

厚クシテ頤ハ大ニ突起シ、腹ハ肥大シ四肢ハ細

長ク、前肢ハ殊ニ長 第六十四圖

ク凡テ堅立ス、脚ハ細シク、
地ニ至ル、身ノ長ニ二變

者アリ、筋力剛強ニ至リ、
上テ能ク壯スヲ擲

ツ者アリ、果實木根及、
魚ヲ捉ヘテ之ヲ食フ、且ク人ニ馴ル、他ノ動物

異カリテ、天性模擬中巧ナルガ故ニ、
示給ル、又、畫工ハ、猩猩及、



示給ル、又、畫工ハ、猩猩及、

繪料ヲ搗カシ、或ハ又之ヲレテ食糞ニ給使セ

猩ヲス、**區羅巴**ニ於キテハ育レ難シ、就中同洲ノ

北地ニ於キテハ殊ニ然リ、大抵忽胸病ニ罹リテ

食肉動物ニ二様アリテ、**瀛洲**ニ

歩行スル者アリ、態及、狸是ナリ、或ハ蹠并ニ掌ヲ

犬、猫、狐是ナリ、其指端ヲ以テ歩スル者アリ、



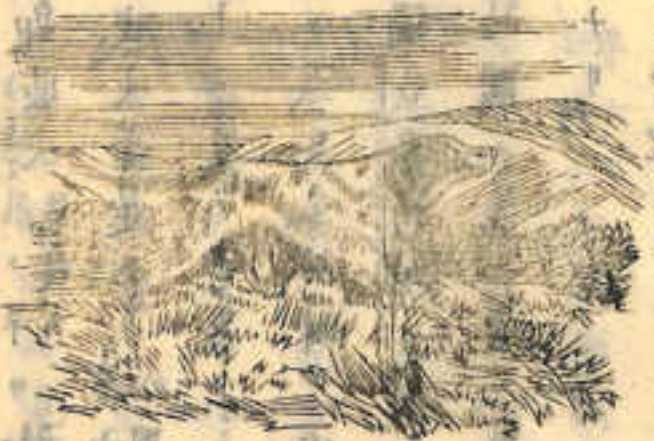
熊詳六十一其體肥大ニシテ短ク、四肢強ク身ニ
 產スル者ハ其毛褐色若ハ黑色ナレドモ北地ニ
 産スル者ハ白色ナリ、俾朗西詳六十五圖
 内ハ亞爾卑山及比里牛斯山
 中ニ於キテ往々之ヲ見ルコ
 トアリ、之ヲ挑ミテ怒ラレム
 ニアテザレハ、人ヲ害スル
 コト稀ナレドモ、獵夫之ヲ毀
 傷スレハ、怒突進シテ獵夫ニ



向ヒ、其後脚ヲ地ニ附ケテ人立ヒ、前足ヲ以テ獵
 夫ヲ喉ヲ扼ス、此時獵夫畏懼ノ色チク、其携グル
 新ク小刀若ハ短鎗ヲ必ズ、熊ハ腹部或ハ咽喉ヲ
 刺シテ之ヲ捕獲ス、ハ
 熊ノ毛皮ハ多クハ軍用ノ革具ニ供ス、其脂ハ香
 油ヲ製スベク、其肉ハ美味ナリ、熊ニ肉ヲ嗜マズ
 シテ果實ヲ食トスル者アリ、殊ニ蜂蜜ヲ好ム、例
 スルニ亞墨利加ニ産スル褐色ノ小熊ハ、蜜蜂ヲ
 驅ル者アリ、此熊ハ蜜蜂ヲ窠ヲ見レバ、之ニ向ヒ
 テ進走ス、蜜蜂群聚シテ體ヲ螫スト雖モ、其毛皮

厚キガ故ニ少シトモ意トセズ、遂ニ之ヲ驅散シテ
 輒ク蜂窠ヲ奪取スルナリ、
 狸ハ大、犬ニ等ルケレドモ、其四足大ニ短シ、其毛
 ハ細クレテ絹絲ノ如シ以テ畫筆、衣服擦刷子等
 ヲ製スルニ、
 猪草シカク四足、
 犬ニ馴レ、信義最、厚ク才智最、
 長セル者ナリ、故ニ其主人ノ友愛スル所ノ人ハ、
 彼亦之ヲ友愛シ、主人ノ友トセザル所ノ者ハ、彼
 亦之ヲ仇視ス、其恩惠ニ感スルコト甚、深クシテ、

假令主人之ヲ放逐スルモ、鞭笞ストモ、必、來リ從
 之テ背クコトナシ、蓋、少シモ怨ヲ記セザル者ノ
 第六十六圖
 如、若、主人之ヲ擲打スル
 其手ヲ紙リテ怒ヲ慰メ
 ント欲スル者ノ如シ、温和
 人性亦至リト謂フベシ、
 犬ノ種類甚、多シ其外貌ハ
 目、微、體ノ大小、毛色ノ差異、
 才智ノ多少ニヨリテ異ナ
 其名モ亦從ヒテ各異ナ



牙
 其
 其
 其

リ即牧羊犬也其毛長而粗捕獸犬獒獵犬獵兔犬
 守夜犬等是ナリ、第六十犬ノ壽命ハ大抵二十歳
 以上ニ及テ者寡ナレ、生レテ二歳ヲ經レバ身體
 全ク成長ス、地球上處トシテ犬ノ居ラザルハナ
 レ、獨亞墨利加ニ於キテハ之ヲ産ムルコトナク、
 其此國ニ居ル者ハ皆外國ヨリ率井來リテ養フ
 者ナリ、

犬ハ狂病ト云フ惡疾ニ罹ルコト屢コレアリ、此
 病或ハ自然ニ發スルコトアリ、或ハ狂犬ニ齧コ
 テ發スルコトアリ、如此犬ヨリ犬ニ傳ヘ、遂ニ

隨テ又ニ傳游スルニ至ルナリ、人若狂犬ノ齧
 傷ニ遇ハズ、紅鐵鐵ヲ以テ瘡口ヲ第六十七圖

ヲ灼クナレ、其形狀大ニ牧羊犬ニ類シ、牧羊犬ニ比スレバ更ニ大ニ

類シ、牧羊犬ニ比スレバ更ニ大ニ

レテ且強シ、歐羅巴洲内魯西亞

ノ或、北方及波蘭ニ於キテハ、狼

大ニ繁殖シ、人ヲテ安居セ

ラレムルニ至ル、然レテモ英吉利境内以南ニ於

キテハ一狼ヲモ見ズト云フ



牙の毒類考 卷五上

狼ハ飢餓ニ迫ル者、ハ犬ノ如ク狂病ニ罹ルニ
 ヲケルヤ、ハ犬抵人ヲ咬傷、其血ヲ飲シ、
 音ヲ聞クモ逃ル去リ、小兒ニ逢フトモ猶且遁走
 隠匿ス、然レドモ冬ニ至リテ、積雪地ヲ覆モ、食物
 マ埋ムルトキハ、其勢勇猛ニシテ群ヲ成シ、大ニ
 田野ヲ狼藉スルコト屢、コルアリ、其甚シキニ至
 リテハ、白晝村落ヲ亂入シ、勇ヲ奮ヒ大ニ力ヲ發
 シテ齧嚼シ、欲ヲ逞シクセントス、
 山犬ハ一名黃狼ハイレ云々、狼ニ比スレバ小ニシテ
 細長ナリ、口吻更ニ尖リ耳更ニ長シ、亞細亞及亞

非利加地方ニ於キ、其影多群ヲ成メ者多シ、性
 點ニシテ巧ニ原野ノ小獸ヲ捕獲シ、然レドモ大
 ニ人ヲ怖ル、者ナリ、其幼少ハ時常大ニ之ヲ
 捉ヘテ漸ク馴養スレバ、亦以テ狩獵ニ用非ルベシ、
 第五 狐
 狐ハ六ノハ狼ヨリ小ニシテ、尋常ノ獵夫至リモ
 又小ナリ、身ノ長、大抵七十、其ニチメリトル、乃至
 八十、サシチメリトルニ過ダル者ナリ、其性
 狐ハ其性黯ナルヲ以テ著名ナリ、獸ナリ、田圃
 近傍ニアル森林中ニ巢窟ヲ作り、其内ニ潛居ス

第六十八圖 山林中テ、ハ忍テ、好機會ヲ得、ハハ
 轉、家禽場ニ潛入シテ、ハ盡、ハ殺
 之、先之ヲ諸處ニ隱藏シテ、後
 大群次ニ集メテ、窟中ニ奔走去
 之、又野兔、家兔、巢窟ヲ侵
 シテ之ヲ捕ヘ、或ハ鴨、鵝、及鶉
 ノ卵ヲ吞、ハ時、ハ限、ハ係、ハ蹄、ハ
 陷、ハスル、ハ小獸ヲ竊取ス、其鬼
 ヲ驅逐ス、ハハ、ハ二三、ハ狼、ハ相、ハ共、ハニ、ハカ、ハテ、ハ戮、ハセ、ハ一、ハハ、ハ犬、ハノ
 如ク、吠呼シテ之ヲ驅逐シ、他ハ其來ルヤ、ハキ、ハ路、ハ傍



二待テ、接近スルニ及ビ突進シテ之ヲ擒スルナ
 リ、

狐、ハ狼、ハ狩、ハニ、ハ比、ハス、ハレ、ハバ、ハ容、ハ易、ハニ、ハト、ハ且、ハ快、ハク、ハ危、ハ難
 モ亦少ナレ、犬ハ甚巧ニ狐ヲ捕獲ス、狐モ亦能ク
 之ニ抗ス、時ニハ、ハ激、ハ怒、ハシ、ハテ、ハ犬、ハヲ、ハ反、ハ嚙、ハシ、ハ獵、ハ夫、ハ之、ハヲ
 鞭殺ストモ取テ放ダザルコトアリ、狐若クハ、ハ犬、ハニ、ハ驅
 逐セラルレバ、ハ狼、ハ狙、ハヒ、ハ其、ハ近、ハ傍、ハニ、ハ巢、ハ窟、ハア、ハレ、ハバ、ハ直、ハニ
 之ニ潛伏ス、ハハ、ハ獵、ハ夫、ハハ、ハキ、ハト、ハ名、ハア
 ク、ハ短、ハ脚、ハノ、ハ小、ハ犬、ハヲ、ハ放、ハテ、ハ巢、ハ窟、ハニ、ハ入、ハリ、ハ之、ハニ、ハ迫、ハル
 テ、ハ巢、ハ窟、ハ出、ハセ、ハシ、ハハ、ハ猶、ハ由、ハジ、ハザ、ハレ、ハハ、ハ窟、ハ内、ハニ、ハ燻、ハテ、ハ其、ハ虫、ハヲ

第六十八圖



華六十八圖、此狐林中、好機會ヲ得、且ハ
 輒、家會場ニ潛入シテ、盡、驅殺
 之、先之ヲ諸處ニ隱藏シテ、後
 大、漸次ニ集メテ、窟中ニ奪、去
 之、又野兎、家兎、巢窟ヲ侵
 レテ之ヲ捕ヘ、或ハ鷓鴣、及、鶉
 人卵ヲ吞ミ、時、テ、係、蹄ニ
 陷リタル小獸ヲ竊取ス、其兎
 ヲ驅逐スルハ、二三、狐相共ニ力ヲ盡セ、一、犬ハ
 如ク、吠呼シテ之ヲ驅逐シ、他ハ其來ルニキ、路傍

二待テ、接近スルニ及ビ、突進シテ之ヲ擒スルナ
 リ、

狐狩ハ狼狩ニ比スレバ容易ニ至テ、且、快ク、危難
 モ亦少ナシ、犬ハ甚、巧ニ狐ヲ捕獲ス、狐モ亦能ク
 之ニ抗ス、時ニハ、激怒シテ犬ヲ反嚙シ、獵夫之ヲ
 鞭殺ストモ、敢テ、放ダザルコトアリ、狐若、犬ニ驅
 逐セラルレバ、狼狙ニ、其近傍ニ、巢窟アレハ、直ニ
 之ニ潛伏ス、巳ニ潛伏スレバ、獵夫ハ、トト名ツ
 ク、短蹄ノ小犬ヲ、放テ、巢窟ニ入り、之ニ迫リ、
 テ、驅出セシム、猶、由テ、ザレハ、窟内ヲ、燻テ、其出ツ

ルヲ待テ、小銃ヲ以テ之ヲ射殺ス。又時アリテ、狐
 ヲ原野ニ驅出シ、馬ニ乗りテ之ヲ逐ヒ、且獵免犬
 若ハ走犬ヲ放チテ之ヲ追窮ス。此時狐ハ許多ノ
 詐術ヲ施シ、或ハ潛匿シ或ハ屢故路ニ復リ、以テ
 犬ヲ欺キテ遂ニ能ク死命ヲ免ル、コト聞コレ
 アリ、
 狐若、係蹄ニ陥レハ、百方カヲ盡シテ脱去セント
 ス。時ニハ其束縛セラレタル部分ヲ齧斷スルニ
 至ルト云フ、然レドモ竟ニ免ル、コトヲ得ザレ
 バ、自死ヲ期シテ敢テ轉動哀叫セズ、從容トシテ

屠殺ヲ待ツコト猶狼ノ如シ

第六 猫 獅

狼類ト狐類トハ犬種ニ屬スルガ如ク、獅、虎、豹、
 三、
 野猫、
 者ナリ

獅 第六十 強猛剛勇ナルヲ以テ、古今各國皆之

手 獅 中ノ王トヤリ、本、亞細亞及亞非利加

由産ニシテ、歐羅巴ニ於キテハ數百年以來獅ヲ

産セシコトナク、亞墨利加及澳太利ニ於キテハ

古今之ヲ見セト云テ、獅ハ身長三、
 以



牙カ、
 手

主合遠大其毛入不、但尾其算入也、尾ノ長ハ
 體ノ長ニ等シ、尾端ニ黑毛ノ把束アリ、其
 中
 曲リタル爪ノ如キモ、爪其ハ、其爪其ハ、其爪其ハ、

平居ハ
 沈重ニ
 之天威
 アリ、若
 起ハ、
 其大
 其爪其ハ



第六十九圖

震慄モシムルコト他ニ比類ナシ、
 獅ノ頭ハ廣大ニシテ大鬣アリ、其色他部ノ毛ニ
 比スルハ稍濃ナリ、他部ノ毛ハ皆帶赤黃色ヲテ
 然、舌ハ其質粗ニシテ數多ク小刺アルコト猶、猶
 舌ノ如シ、能ク隨意ニ其爪ヲ隠スコトモ亦猶、
 如シ、瞳子ハ縦ニ長クレテ暗處ニ於キテハ大ニ
 光輝ヲ發ス、其吼セシキハ聲音遠ク山谷ニ震
 上、武夫モ之ガクメニ戰慄驚怖スト云フ、
 獅ハ犬ノ如ク馳走スル者ニナラズ、常ニ從容ト
 シテ徐行シ、其爪ト拾、貓ノ如シ、或ハ躍リテ五六

又一日、其ノ距離ヲ超過スルコトヲ覺、其飼食ヲ
得ルニハ之ヲ驅逐スル事ナシ、其稀ニ事ヲ失、抵常
ニ水源ヲ近傍ニ潜伏シ、野牛ノ牛及其 他諸獸ヲ來、其知水ヲ飲ム者ヲトバ、突出シテ之
ヲ捉留、其體ヲ碎裂スルコト亦恰、雷電ノ震撃スル
事如シ、其ノ 獅ノ餓ケルト起ルト、其氣ヲ聳動シ、尾ヲ震撃ス
ルニヨリ、所察知スル、此時ハ人ニ觸撃、其ノ 忌
憚スルコトナシ、砲聲ヲ發スルトキ、最モ恐懼ス
ル事トナシ、却リテ益々怒ルト云フ、蓋、獅ト虎トハ

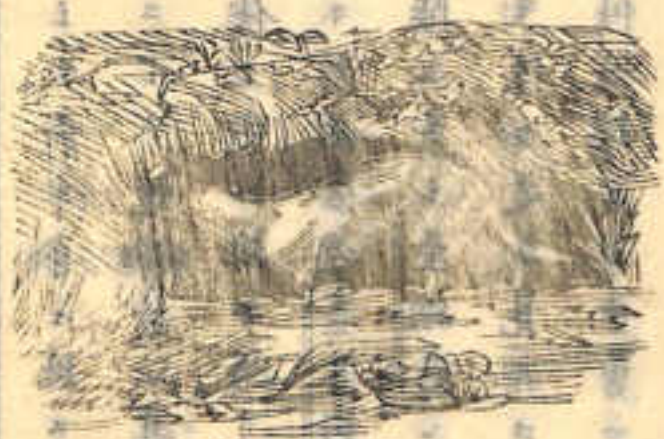
天竺無比、其書ニ記、烈亦無雙ノ猛獸ナリ、
牝獅、其體獅ニ比、大長バ短小ニシテ、鬣トシ、然レ
トモ剛強猛獍ナル事トハ、毫毛異ナレ、其ノ ヲトテ、
其貌ヲ哺乳、護育スル時ニ當リテハ、猛威殊ニ強
盛ナリ、其ノ 第七、虎、曰カハ、其ノ 野猫、其ノ 虎ハ、
虎ハ、寺亞細亞ノ森林郊野ニ居ル者ニシテ、印度
ノ沼澤多キ平地ニ甚多シ、其體ハ獅ヨリ長ク、
テ足ハ短シ、頭ニ鬣ヲク、毛皮ハ艶美ニシテ赤棕
色ヲ染シ、縹ニ褐色ノ斑紋數帯ナリ、其ノ

處ハ獅ヲ畏レズ、ヨク其三角鬪シテ之ニ勝ツコト屢コレヲ見蓋獅ヨリ猛烈ナリ其餌食ヲ捉ルニ當テ不意ニ出テ之ヲ攫噬スルヲ猶獅ノ如シ然レドモ偶然自舉動ヲ誤リ或ハ不意ニ障礙アリテ一舉シテ其意ヲ達スルコト能ハザル之ヲ捨テ復顧ミスト云フ、
シヤバルハ其體獅虎ヨリモ小ニシテ皮ニ斑點アリトモ紋線ナシ之ヲ挑ミ怒ラシメ又ハ窘迫シテ逃路ナキ時ノ外ハ人ヲ害スルコト稀ナリ、
蒙テ其皮ハ斑點ナルコト豹ノ如ク體ノ大

ニシテ畏ルベキコト殆虎ノ如シ、
此ニ比ストバ其體甚小ナリ之ヲ馴養スレバ狩獵ニ用井ルベシ、
亞細亞ノ豹ハ毛ニ斑點アルコト、
其猛烈ナルコトモ亦殆ギクアルニ議ラズ、
亞墨利加ノ豹ハ黑色ニシテ甚小ナリ然レドモ亞細亞ニ産スル者ト同物ニシテ猛獁ナルコトモ亦等シト云フ、
野猫ハ一名ル、
北亞并ニ西伯利魯西亞亞墨利加等ノ如キ、

其云之ヲ防禦ス又能夕夜ニ乘レテ家畜ヲ侵掠
 及若生肉ヲ獲ルルコト能ハサル時ハ地ヲ發掘シ
 又獸ノ窟ヲ出テ之ヲ食フ

第十一圖



靈貓、真貓、田鼠、ヒニレ、
 類等七、貂鼠、エム、ス、ノ、
 十一、皆小キ食肉動物ニシテ、
 野兔、家兔、家禽、及野鳥ヲ捕
 獲スル者ナリ、獵者或ハ、
 エレ、
 於此ヲ殺サシムルコト

アリ、エム、
 其價甚貴シ、其猫ノ毛皮ハ之ニ比スレバ大ニ
 低價ナリト云フ、

靈貓ハ亞非利加ノ中央ニ多シ、寒威ヲ豫防スレ
 ハ、寒暖適度ノ土地ニ於キテモ亦之ヲ育スベシ
 肚ニ一小囊アリキ、馨香馥郁タル脂ヲ産スルヲ
 以テ著名ナリ、此香料ハ荷蘭人貿易ノ要品ナリ、
 荷蘭人ハ之ヲ貿易品ニ供スルノモノナラズ、之ヲ
 籠也、養ハ、魚肉ヲ與ヘ獸肉ヲ碎キテ食ハシメ
 亦小鳥ヲ以テ之ヲ養ヒ、或ハ稻米ヲ食ハシメ、四

日表ハ五日毎ニ其肚囊ヲ壓搾シテ香料ヲ出サ
レハ是レ亦シベツト名ツク其香恰麝香ニ異ナ
ラズ但麝香ハ甚稀ニシテ價モ亦甚貴ニ故ニ海
南或ハシベツトヲ和シテ麝香ヲ質造スルコト屢
ヨレアリ
第九 海豹及海馬 又海牛、犬牙
狀ノ名アリ
海豹ト海馬トハ皆水陸兩佳ノ食肉動物ニシテ
多クハ海ニ住シテ水面ヲ游泳シ時々海濱ニ來
リテ其身ヲ日光ニ曝シ且子ヲ乳養スル者ナリ
但陸ニケリテハ行步甚難シ然レドモ亦魚類ノ

如クニ陸ニ居スル水中ニ沈没スルコト能ク是其
他ノ諸哺乳獸ノ如ク大氣中ニ於キテ呼吸スル
者ニシテ久シク水中ニ在ルトキハ絶息ニテ死
スルガ故ナリ
海豹及海馬ハ海ニ住シテ行セカシテ游泳スル
ガ故ニ四肢ノ構造甚奇異ニシテ前肢ハ臂骨ニ
至ルマテ全ク皮層内ニ隱匿セ外ニ出テハ自在
ナルハ前臂ト掌トノ間ナリ其指ハ相連接シテ
廣ク掲テテ後肢ハ左右相對シテ身後ニ延長
シ形尾ノ故アリテ之ヲ連接スルガ故ニヨク自

在ニ動ク者ハ惟足ヲニカニ此ノ如ク四肢ノ形
 狀ハ移魚ニ類スルニテ其體ハ他ノ哺乳
 獸ト異ル所ナリ
 海豹ハ其頸大ニ犬ニ類シ耳ハ尖ニ比スレバ甚
 小ク口吻ニ粗剛ナル長鬚アリテ横列スルニテ
 猶猫鼠ノ如ク魚類并ニ牡蠣ノ如ク軟大ニ介類
 ナ食トス性柔和ニテ敏捷ナリ能ク人ニ馴ル
 事アリ人々用ヲ大ニ者ニアラズ
 海豹ノ類ハ許多ニシテ海獅海熊海犢海象等ノ
 名アリ通常ノ海豹ハ佛朗西大西洋ノ海濱ニ於

キテ多ク之ヲ見ル北中海邊ニ於キテモ亦之ヲ
 見ルコトアレバモ古今ハ甚稀ナリト云フ小説
 鄙談ニ入魚トリス并ニ海女シムト稱スル者ハ即
 海豹ナリ海豹ノ聲音ハ稍曲調アルガ如シ故ニ
 古人之ヲ海女ノ歌トスト云フ然レドモヨク之
 ヲ聽テバ其聲音犬吠ニ似タリ海豹ハ身ノ長殆
 一メ北ナルニテ長鼻海豹一名海象ハ大洋
 洋ノ南海濱ニ多シ其長七メト又ハ八メト
 一ニ及テ者ナリ
 海馬イナニ同ニナリ其上頤



其見二箇切大牙垂下... 第七十二圖... 其土...
 ヲ異ナリトス、岩石ニ攀附
 スルトモ此牙ヲ以テ懸ル
 ナリ、此牙ハ護身ノ具ナレ
 ば類、亦大ニ他物ヲ傷害ス、
 牙ヲ製作ニ用非レバ、其美
 麗ナルコト眞ノ象牙ノ上
 に出ズ、其肉ハ多量ノ油ヲ
 取ルベシ、北海并ニ極地ニ
 居ラザレバ此獸ヲ見
 ルコトナレ身ノ長、大約五
 尺トモ又ハ六尺ト



トルノ者ヲ中等トス、
 第七十 鯨 カレヤロ 鯨脂
 鯨 第三圖 七十八海住動物ノ最大ナル者ニシテ、其長
 三十メートルニ達スル者アリ、常ニ氷地ノ近傍極
 海中ニ生存ス、之ヲ漁スルコト甚急ナルトキハ、
 漸々遠ザカリテ極ノ近傍ニ趨ク者ナリ、
 鯨ハ動物ヲ食スル哺乳獸ナレドモ、海豹及海馬
 ニ比スレバ、其外形更ニ魚ニ類シ、後肢ナク亦臆
 骨ナシ、其軀幹ハ頭ヲ遠ザカルニ從ヒ、漸細小ナ
 ルコトモ亦魚ノ如シ、強固ナル尾アリ、其端分レ

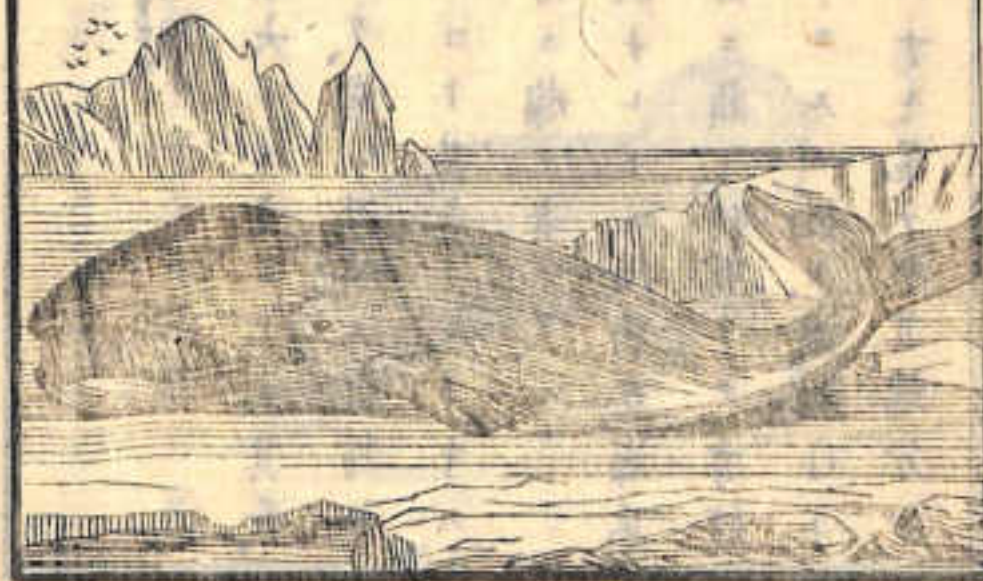
其川二箇ハ大牙垂下ニ異
 ヲ異ナリトテ、岩石ニ攀附
 スルニ亦此牙ヲ以テ懸ル
 ナリ、此牙ハ護身ノ具ナレ
 自來、亦大ニ他物ヲ傷害ス、
 牙ヲ製作ニ用非ズバ、其美
 麗ナルコト真ノ象牙ノ上
 ニ出ズ、其肉ハ多量ノ油ヲ
 取ルベシ、北海并ニ極地ニ
 居ラザレバ此獸ヲ見
 ルコトナシ身ノ長、大約五
 メートルトナル又ハ六メー



トルノ者ヲ中等トス、
 第三圖 第十 鯨 カレヤロ 鯨脂
 鯨 第三十ハ海住動物ノ最大ナル者ニシテ、其長
 三十メートルニ達スル者アリ、常ニ冰地ノ近傍極
 海中ニ生存ス、之ヲ漁スルコト甚急ナルトキハ、
 漸々遠ザカリテ極ノ近傍ニ趨ク者ナリ、
 鯨ハ動物ヲ食スル哺乳獸ナレドモ、海豹及海馬
 ニ比スレバ、其外形更ニ魚ニ類シ、後肢ナク亦腕
 骨ナシ、其軀幹ハ頭ヲ遠ザカルニ從ヒ、漸細小ナ
 ルコトモ亦魚ノ如ク、強固ナル尾アリ、其端分レ

テ二十為ハ、頭ノ巨大ナルコト殆、全體三分ノ一ニ居ル、頭ハ直ニ軀幹ニ附着シテ別ニ細キ領ナシ、口ハ巨大ニシテ齒牙ナク、鯨鬚アリ、鯨鬚ノ骨板ノ櫛比シテ頬内ニ充滿スル者ナリ、俗ニ之ヲ鯨鬚ト稱シ婦人ノ裝飾

圖 三 十 七 第



口ハ其目ヲ覆ス、筋鞭杖等ヲ製取ヘシ、鯨ノ鬚帯ハ其巨大ナル口ニ比スレバ甚、狭小ナリ、故ニ鯨魚、鯨鬚、白魚等ノ如キ細魚ノ外ハ之ヲ食フコトナシ、其之ヲ食フ時ハ、先、口中ニ入レテ上齧テアルニ箇ノ孔ヨリ、其共ニ吸入セル海水ヲ噴出ス、此時鯨鬚能ク魚ヲ口内ニ拘留シ、次ニ之ヲモテ胃管ニ下ラシムルナリ、鯨鬚ノ長クハ鯨獵ハ通常五月初旬、七月又ハ八月、間ニ於テテス、五月以前ニ始ムルコトナク、亦八月以後ニ及ブコトナシ、蓋、五月前八月後ハ、鯨魚ノ住スル

近海、急、堅、氷、ヲ、結、氷、防、渡、海、且、カ、ラ、サ、ル、ト、ナ、リ、
鯨、船、ト、シ、テ、數、隻、ヲ、用、併、行、成、ル、ル、者、ニ、テ、各、
船、船、長、一、人、掌、楫、者、四、人、投、結、者、一、人、及、引、水、者、
一、人、ヲ、乘、區、而、モ、行、其、舟、適、宜、ノ、距、離、ニ、達、ス、レ、バ、
投、結、者、カ、ヲ、極、ク、投、結、ヲ、擲、リ、テ、鯨、魚、傷、ヲ、被、リ、
テ、激、速、ニ、海、底、ニ、沉、着、ス、レ、ル、也、結、ニ、附、ケ、タル、繩、ヲ、
延、ベ、テ、鯨、ヲ、行、ク、所、ニ、任、ス、但、結、繩、船、艇、ノ、摩、擦、ス、
ル、故、遂、ニ、火、ヲ、發、シ、鯨、ヲ、患、アリ、是、ヲ、以、テ、絶、エ、キ、
繩、ヲ、濕、シ、テ、之、ヲ、預、防、ス、ル、ナ、リ、繩、ハ、極、ク、長、キ、
者、ヲ、用、并、又、別、ニ、他、繩、ヲ、預、備、シ、且、務、メ、テ、船、ヲ、運、

轉、シ、テ、鯨、ノ、行、ク、所、ニ、從、ヘ、ド、モ、繩、足、ラ、ズ、レ、テ、船、
艇、之、カ、爲、ニ、傾、覆、シ、漁、夫、沉、没、ス、ル、コ、ト、亦、少、ナ、シ、
ト、モ、不、若、此、危、害、ヲ、ク、レ、テ、鯨、再、水、面、ニ、浮、ヘ、バ、再、
結、ヲ、擲、テ、復、沉、ミ、テ、更、ニ、浮、ベ、バ、更、ニ、結、ヲ、擲、テ、此、
ノ、如、ク、數、回、連、擲、シ、テ、鯨、血、液、ヲ、失、ヒ、疲、勞、シ、テ、斃、
ル、ニ、至、レ、バ、其、皮、ヲ、剥、ギ、テ、皮、裡、ニ、アル、脂、肪、ヲ、
抄、取、ス、大、鯨、ナ、ル、バ、一、尾、ニ、シ、テ、脂、肪、六、十、噸、ハ、重、
キ、一、千、キ、ロ、ク、以、上、ヲ、獲、ル、者、ナ、リ、其、價、大、約、二、萬、
グ、テ、ン、ク、ニ、至、ル、ベ、シ、
カ、シ、ヤ、ロ、ハ、鯨、ニ、類、ス、レ、ド、モ、鯨、鬚、ナ、ク、レ、テ、齒、牙、ヲ、

牙、カ、シ、ヤ、ロ、ハ、鯨、ニ、類、ス、レ、ド、モ、鯨、鬚、ナ、ク、レ、テ、齒、牙、ヲ、

望

文、部、省

此ヲ異ナシトス能ク大魚ト謂ヒ且鯨ヲモ畏レ
 之ヲ叢フ者ナリカシロハ平常群ヲ成シテ海
 洋處々大洋泳スレ下ニ鯨ハ否ラズ其妙弱ニ
 テ流潮ニ執スルコト能ハザル者ニアラサルガ
 常ニ冰洋寂寞ノ中ヲ獨泳シ他ニ行クコトナ
 シカシロモ脂油ヲ出スコト亦鯨ノ如クナレド
 モ鯨ニ比スレバ其量少ナリカシロモ腦蓋内ニ
 鯨脂ト名ツクル白塊アリ時アリテ之ヲ醫藥ニ
 供スレドモ多クハ之ヲ以テ蠟燭ヲ製ス甚美麗
 ナレドモ黃蠟ヲ以テ製スル者ニ比スレバ速ニ

略解ニ凡價モ亦貴シトシ一百半價トシマヤ
 鯨又カシロヲ總稱シテ水住哺乳獸一名胎族
 云々海豚魚モ亦此族ニ屬スル者ナリ
 茅干一踏齒動物鼠野兎家兎野兎
 踏齒動物ハ前齒堅銳子夫牙ナキ動物ナリ
 皆後腹ニ生スレバ前肢短シ類ニ由リテハ前半
 身ト後半身トノ高低大ニ異ナル者アリ栗鼠是
 ナリル於テカシロ如キ然其高低以差殊ニ甚シ
 トス鼠其中心大體屬ス
 此日ニ屬スル者ハ栗鼠鼠野兎家兎野兎

海狸等あり、皆殺殺并草芥ノ皮根ヲ喰トシ、大
 ニ收糞ヲ害スルコト屢コレアリ、其中大野鼠及
 小野鼠ノ如キハ、田野ニ植エタル穀草ヲ嚙損シ
 鼠又、野鼠ノ如キハ、倉庫ニ潜入シテ待蓄スル所
 存穀類ヲ食スルナリ、此鼠ノ由ニシテ、
 田圃ノ近傍ニ居ル稗及ヒユネ、トモトモ、
 スベカラス、聚及ヒユネトモトモ、トモトモ、
 ナ野鼠ノ如クニシテ更ニ巧ナレ
 擲耳瓦鼠ハ今カ距ルコト一百年前始メテ佛朗

西ニ來リ、其後大ニ繁殖セリ、巴勒等ノ如キ諸大
 部ニ於キテハ、殊ニ然リ、此獸ハ汚溝ニ入りテ食
 ノ素ハ、糞ヲ畏レ不能ク之ト抗敵ス、故ニ擲耳
 瓦鼠ヲ驅獵スルニハ、「フナユ」ト名ガクル夫ノ
 役使ス、其犬ハ之ヲ驅ルコト甚、猛烈ナリ、嘗テ一
 回ノ獵ニ於キテ、能ク擲耳瓦鼠十五萬ヲ殺レ、
 ト云フ、
 野兔 第七十 耳ノ長キト、耳端ニ黒毛簇生シテ
 把束ヲナスト、全體ノ毛ノ赤棕色ナルトヲ以テ、
 家兔ト識別レ易シ、且家兔ノ如ク土中ニ穴居セ



其毛ハ織リテ帽ヲ製スバ
 肉ハ味家兔ノ上ニ出ズ
 家兔ハ野兔ヨリ短小ニシテ
 常ニ群ヲ成レ、深ク地ヲ穿チ
 テ數條ノ迷路ヲ設ケ住居ト
 ナス名ヅケテ兔穴ト云フ之
 ヲ驅獵スルニハ小銃ヲ用ヰ
 或ハビユレトテ使ヒ、或ハ野兔獵ノ如ク係蹄ヲ
 張リテ擒取スルナリ、家兔ハ畜養スベシ然レド
 モ家内ニ於キテ畜養スルトキハ、兔圍ニノル者

ニ比スレバ、其肉夫ニ味ヲ損ス、總テ家兔ハ其味

野兔ニ劣ス、家兔ノ一類ニ昂合拉屯ヒト亞細

ノ昂合拉ノ産ナルヲ以ト云フモノアリ、毛ハ白

ク、身ヲ長ク、其質絹ノ如シ、織リテ布ヲ製スレバ、

柔軟ニレテ甚温暖ナリ、帽工モ亦之ヲ用ヰルナ

リ、

第十二 海狸

海狸オナリス 第五圖 湖邊若ハ川河ノ岸ニ於キテ、自巧

ニ家屋ヲ造ルヲ以テ著名ナリ、其夥多群ヲナス

ハ北亞墨利加洲内加拿他地方ナリ、亞細亞ノ北

部ニ於キテモ

第七十五圖

亦多ク之ヲ見

ハ、海狸ノ巢窟

ヲ構ナルハ、恰

人ノ村落ヲ成

スニ異ナラズ

先雅キ樹木ヲ

啗斷ルテ其枝

條ヲ折リ、其皮

ヲ剝キテ食用



而レ并後其樹幹ヲ川中ノ

濕地ニ橋立シ自己因湖キ尾以テ鑿ニ穴ハ粘
 土ヲ煉テ之ヲ塗カ以テ壁トナシ、遂ニ高、大約
 二三間トナシ、ルノ家屋ヲ構造ス、其下層ハ食用ニ
 供ス、木キ樹皮枝條ヲ截メテ倉庫トナシ、土層ハ
 以テ寢室ニ供ス、而シテ各家屋ニ通常牝牡三對、
 又ハ四對ノ海狸アリテ之ヲ共有ス海狸ノ一村
 落ニ家屋ヲ百アル者、跡少ナカラズト云フ、
 海狸水流中ニ於テ新、家屋ヲ構ヘシトスル時ハ、
 必、先、幾、桑ノ杭ヲ立テ、之ニ土ヲ塗リテ堅固ノ堤
 ヲ作り、堤邊ニ家屋ヲ造ルナリ、時々之ヲハ堤ノ

牙ノ是、類、口、卷、五、上

五

文部省

長、三十、四、五、乃至四十、五、六十、七十、八十、九十、及、百、者、
海狸、不、集、窟、二、穴、二、條、ノ、逃、路、ヲ、開、キ、其、一、ハ、冰、中、
ニ、通、ジ、テ、逃、出、ス、ル、ニ、備、ヘ、他、ノ、一、路、ハ、直、ニ、陸、地、
ニ、通、セ、ル、也、其、窟、ノ、外、ニ、立、テ、一、ニ、土、ヲ、堆、テ、
海、狸、ヲ、捕、獵、ス、ル、ニ、ハ、小、銃、ヲ、用、キ、ル、コ、ト、甚、稀、
ニ、是、其、群、怒、道、逃、隱、匿、セ、ン、コ、ト、ヲ、恐、ル、レ、バ、ナ、リ、
故、ニ、常、ニ、海、狸、獵、ヲ、ラ、フ、コ、ト、名、ツ、ル、係、蹄、
用、其、法、先、係、蹄、ヲ、水、中、ニ、沈、メ、護、護、ヲ、塗、リ、タ、ル、
緣、枝、ヲ、附、加、シ、以、テ、係、蹄、ナ、ス、海、狸、甚、之、ヲ、嗜、ム、カ、

故、ニ、來、リ、テ、其、餌、枝、ヲ、咬、メ、テ、係、蹄、即、發、動、シ、之、ヲ、
縛、シ、テ、水、底、ニ、沉、没、セ、ル、ム、如、此、ス、ル、ト、キ、ハ、海、狸、
ノ、自、係、蹄、ヲ、脱、ス、ル、カ、將、之、ヲ、奪、ヒ、去、ル、ニ、ア、ラ、ハ、
レ、必、溺、死、ス、ル、コ、ト、必、キ、也、然、レ、ド、モ、之、ヲ、捉、フ、ル、
ニ、當、リ、誤、リ、テ、係、蹄、三、分、ノ、一、ヲ、損、失、ス、ル、コ、ト、少、
ナ、カ、ラ、ズ、ト、ス、又、冬、月、湖、面、マ、サ、ニ、凍、ル、時、ハ、預、冰、
ヲ、穿、テ、大、ナル、孔、ヲ、作、リ、之、ニ、網、ヲ、張、リ、テ、後、其、
巢、窟、ヲ、劫、セ、バ、海、狸、狼、狽、シ、テ、一、旦、水、中、ニ、逃、匿、ス、
レ、ド、モ、暫、時、ニ、シ、テ、呼、吸、セ、ン、ガ、タ、メ、冰、孔、ニ、突、出、
ス、是、ニ、於、キ、テ、羅、シ、テ、之、ヲ、捉、フ、ル、ナ、リ、

海狸の身ノ長、約八十寸、其ノ毛、
 皮ハ純禿色ナリ、相江懸、之ヲ貴重ニ、其之ヲ驅獵
 禁禁口味甚、咸欲以取、現今、註如拿他、然於
 之ハ殆、海狸ヲ見ルコトナシ、故ニ漸々北方ニ進
 ヲ、世トバ之ヲ獵獲、長限、由ラズ、嶺南ニ海狸ヲ驅
 獵、官規定、累禁無益、又獵ヲ禁止、夫サセバ、恐ク
 ハ海狸ヲ種邊ニ全消盡、然ルニ至ラズ、其ス、
 限羅巴、河申ニ於テ、亦往々海狸ヲ見ルコ
 トナシ、然ルニ、其皆孤棲ニ、味群居セズ、亦家屋ヲ
 構造、唯、河岸ヲ窟、於テ穿テ、住ス、此ノ文、

清水世信 枝

狩野良信 畫

北爪有卿

氏初學須知卷之五上 終

河の學須知 卷之五上

尾

文下

